

# 平成29年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策		学校関係者評価委員から
授業づくり	◎未来や社会につながる授業づくり ○「こころざしを実現する力」を育む場面の設定 ○「こころざし」を育む主体的で対話的で深い学びの実現 ○ESDの視点から教科の本質を押さえた教材研究	授業の内容がよく分かると答える生徒 85%	B	80%	○全国学力・学習状況調査において、本校3年生の学力定着状況は国語、数学ともに問題A（主に知識）は全国、県平均を上回った。反面、問題B（主に活用）においては、国語、数学ともに全国、県平均よりもやや低い結果となった。「授業の内容がよく分かる」と答える生徒は目標よりもやや低く80%であったが、「進んで先生に聞いたり自分で調べたりする」と応える生徒の割合は77%で昨年度(70%)よりも7%増加した。総合的な学習の時間における探究的な学びが、主体的な学習への取組に結びついている可能性がある。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・ESDの視点から教科の本質を押さえた授業について、教員が研修する。 ・授業におけるこころざしを実現する4つの力を指導者が十分理解し、4つの力を育む場面の設定を意図的に行う。	・1年生の「ようこそ先輩」に講師として参加した。生徒と対峙してみると生徒の気持ちがよく分かる。立止式での生徒の様子も、生徒の志を感じる。地域の人がこうした姿を知れば、もっと学校を応援したくなると思う。 ・失敗を恐れずに挑戦するの項目が77%であり、目標に対して到達している。体育大会や合唱コンクールの様子を見ていても、仲間と共にがんばる生徒の姿が見て取れる。仲間同士の学級づくりがベースになるので、互いに高め合っていける取組は重要である。ピア・サポートに取り組んでみたらどうか。 ・不登校の数が多くて心配している。理由の把握や個への支援は十分なされているのか、気になっている。 ・いじめについて、まだ解決に至っていないと報告されているのは、指導後に経過観察をしているという意味だというように表示して欲しい。 ・生徒のアンケート結果の関連性を分析的にとらえる必要がある。データの丁寧な回収、データから長所や課題をとらえることについて十分でない部分があり、取組の徹底、工夫が必要である。 ・教員の多忙を考えると働き方改革が必要。誰に何を任すのか、これからもっと考えていかなければならない。
		進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒 70%	A	78%		
こころざしづくり	◎未来や社会につながるこころざしづくり ○地域に根ざしたひと、もの、こととのかかわりの推進（地域学習、未来学習、職業講話、職場体験、防災学習等）  ◎目標に向かって挑戦する自分づくり ○進路指導 ○道徳指導 ○健やかな心と体づくり	総合的な学習の時間を通して、今の自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしていると答える生徒 80%	B	80%	○総合的な学習の時間を中心に、1年生の「地域学習」や「ようこそ先輩」、2年生の「未来授業」や「職場体験」、3年生の「地域貢献活動」など、地域の「ひと、もの、こと」との関わりを生かした活動に積極的に取り組んできた。また、校内でも3年生が中学校生活で学んできたことを1、2年生に語る「先輩授業」を実施し、学んできたことをまとめ、発表する機会を設けた。「総合的な学習の時間を通して、自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている」と答える生徒は全校で80%であり、未来や社会につながるこころざしは育まれつつある。11月に行われた生徒の意識調査では、「地域のことに進んで参加していますか」という質問に、全校で89%の生徒が肯定的に回答するなど、地域の活動に関する意識はたいへん高い。ただ「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と答える生徒の割合は60%であり、「ひと」や「人の想い」への関心は高いが、今のところ「こと」や「もの」への直接的な関心が高いというわけではなさそうである。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・教師が事前にねらいを示し、目的の浸透を図る。 ・活動の目標を意識して活動の途中でも教師が生徒の取組を丁寧に見取り、適切に価値付ける。 ・振り返りにおいて、めざす姿への視点をもとに教師が個々の生徒の成長を認める取組を行っていく。	
		今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある 70%	C	60%		
		進んで挨拶をすると答える生徒 95%	B	94%		
		難しいと思うことにも失敗を恐れずに挑戦していると答える生徒 75%	B	77%		
仲間づくり	◎心の居場所づくり 生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場の提供 ・学年・学級づくり、生徒会活動 ・人間関係づくりプログラム、Q-U  ◎絆づくり 生徒が主体的に取り組む活動を通し、自らが絆を感じ取り紡いでいく場と機会の設定 ・鉄人遠足、体育大会、合唱コンクール ・授業での学び合い、協働学習	学級は楽しいと答える生徒 95%	B	90%	○生徒一人一人に所属と役割を与え、心の居場所づくりを準備するとともに、行事等を通じて絆が深まるような生徒の関わりを意図的に仕組んできた。役割を与えられたとき、期待に応えたいと考える素直な生徒が多く、「学級は楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の質問に肯定的な回答をする生徒は90%を超える状況であった。ただ、一部に学級のルールを守ることができず、級友とのトラブルや授業に迷惑を掛ける行為も見られ、その都度、学年を中心に指導を重ねてきた。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・生徒の頑張りを様々な視点から認め、称揚する。（Q-Uの分析結果を活用する） ・世の中の出来事を分かりやすく伝え、未来や社会を意識して自分とのつながりや関わりを考えさせていく。 ・子どもにつくという指導をさらに実践し、問題行動等の未然防止、初期対応に努める。	
		みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒90%	B	92%		
		自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒 85%	B	85%		
		出席率 95%	B	96%		

## 学校関係者評価を受けてのまとめ

学校運営協議会の委員から、生徒が素直で明るく、学校行事や授業に取り組んでいるとの評価をいただいた。委員の方々には、年3回の学校運営協議会での授業参観や生徒との懇談の他、総合的な学習の時間の講師などにも積極的に関わってくださり、生徒との直接的な関わりの中で感じたこととしてたいへんありがたく受け止めている。平成29年度、全職員が学校教育目標の実現に向け、「授業づくり」「こころざしづくり」「仲間づくり」に取り組んできた成果と感じている。

ただ、生徒のアンケート項目の数値を見ると、教師の思いや取組と生徒の意識に差のある項目が有り、課題を分析し、取組を焦点化する必要を感じた。例えば、学級が楽しいと答える生徒の割合は、昨年度と比べ5%減少している。総合的な学習の時間が充実し、昨年度以上に様々な取組を行っており、教師としての充実感はあるのだが、生徒に届いていないのはなぜなのか。全職員で取り組むはずの目標、ねらいが教職員一人一人に浸透していない点があったのではないかと感じている。こうした点を踏まえ、3学期から学年重点項目を決め、これだけは達成しようとの取組を行っている。焦点化することで、効果の見えやすい教育活動を行い、手応えを得て、次年度につなげてきたい。

平成30年度は学校教育目標を「志をもち、たくましく生き抜く生徒の育成」とし、志を実現する4つの力についてはそのままとする。アプローチの仕方として「授業づくり」「こころざしづくり」「仲間づくり」の3つの部会を整理し、学校運営組織としての再編をすることで、より効果的な組織体制で学校教育目標の実現をめざす。教科横断的な学習、地域連携などをさらに充実し、地域を巻き込みながら全職員で生徒に届く教育活動の展開をめざしたい。